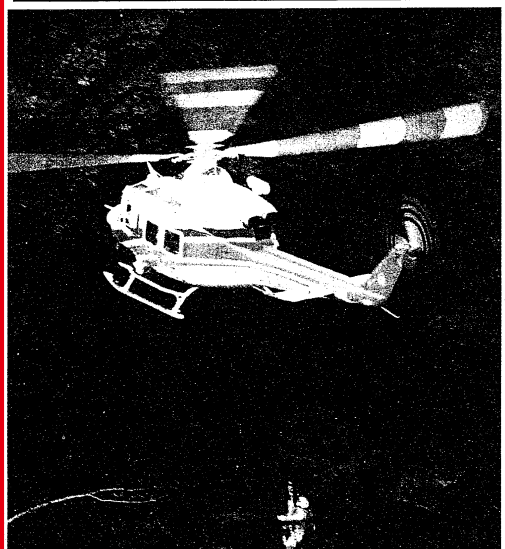
（1）　明治20年創刊　第37839号　（日刊）　上毛新聞

谷川岳で鉄砲水

1人死亡、6人けが

埼玉のスポーツ少年団員ら　河原で十数人流される



救助隊員に抱きかかえられ、県防災ヘリで救出される被災者＝6日午後5時10分

六日午後三時二十分ごろ、水上町湯檜曽の谷川岳から流れる湯檜曽川で、ハイキングをしていた埼玉県東松山市の新明サッカースポーツ少年団の男女三十一人（大人十三人、児童十八人）が鉄砲水に襲われた。沼田署などの調べで、十数人が流され、同団代表で同市神明町二丁目、会社員、萩原勝男さん（45）が水死したほか、大人六人が軽いけがをした。前橋地方気象台によると、現場付近は午後一時から同四時までの三時間で約四〇ミリの雷を伴う雨が降った。県は「現場近くで局地的なゲリラ豪雨が降り、鉄砲水になったのではないか」と話している。

関連記事 16、17面

同署などによると、三十七十人の長さで隊列を組んで歩いていたところ、突然、水が襲ってきて鉄砲水が直撃した。三十一人は両岸に逃げ、流されたが、十数人が逃げ遅れ、流された。河原は鉄砲水の影響で約七十センチ増水した。

萩原さんは現場から約百メートル下流の中州に近い川の中にいるのを発見され、月夜に出発。同九時五十分ごろに東松山市の新明小学校に到着し、訓練日の宿泊施設に到着した。

萩原さんは隊列の後方にいたが、逃げ遅れたらしい。一泊二日の日程で水上町を訪れた。マイクロバスなどに分乗して同日午前七時半に同市を出発し、一ノ倉沢谷間に入り、雨具を使うほどではなかったという。

同団によると、現場近くの川幅は約十一メートル、水深は通常一メートル以上合流を繰り返しながら約二キロ下流の中州に向かった。運転手と大人四人を除いた大人十三人と児童十八人が一ノ倉沢に向けて歩き始めた。

グループは午後零時半ごろ、一ノ倉沢谷間に再び歩き出し、湯檜曽川に出た。一ノ倉沢を歩いている時、雨が降り出したが